

第5回入間市地域公共交通協議会意見への対応

	発言委員	意見・発言
評価指標	茂木委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「利用状況」の評価指標において、見直しの評価基準は全体の平均利用者数となっているのに対し、廃止基準は、各コースで設定されていることに違和感を感じる。</li> <li>・「運行経費」の評価指標において、減価償却費を含めた基準とするべきではないか。</li> </ul>
	古屋委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・評価基準を高く設定すると、パブリックコメント等でハレーションが起こる可能性がある。導入時は低く設定しておいて、徐々に高くするというやり方もある。</li> </ul>
	山崎委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・見直しの基準を各コースで設定し、廃止基準を全体で設定するべきではないか。</li> </ul>
	田中委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワゴン化区間については、具体的なルートやダイヤが決まっていない中で、妥当な評価指標が設定できるのか。</li> </ul>

上記意見に対し、会長・副会長及び事務局で再調整した結果、以下の対応とした。

- ・ 11/9 会長・副会長と再協議
- ・ 11/11 再協議結果を委員へ送付
- ・ 11/18 パブリックコメント開始（12/19まで）※本日、内容を議論

【参考】国土交通省関東運輸局交通政策部交通企画課ヒアリング結果

- ◆ 目標値、評価値の設定の考え方について
  - ⇒しっかりと説明できる数値であればよい
- ◆ バスを小型化する区間について、どのような考え方にに基づき指標を決めるべきか
  - ⇒指標は、現在走らせている数値より高く設定して欲しいが、達成できない数値でも困る。地域の実情に合ったものにして欲しい。また、現状維持の数値を設定するという考えは好ましくないが、経費を削減するという考えにおいては一定の理解はできる。
- ◆ 具体的にどのように指標を設定すべきか。（現在は走っていない）
  - ⇒どのような数値でもよいが、説明できるものでなければならない。新たに走る区間だからといって、現在のデータが使えないということではない。その地域の実績値としては信用できるデータであるため、活用して頂いた方がよい。

【再協議した評価指標内容】※地域公共交通網形成計画（案）から抜粋

(3) 評価指標

ていーろど及びワゴン化区間について、今後の運行における見直し、継続の評価基準（案）の設定を行う。

評価基準として、「利用状況」と「運行経費」の二つの評価点を設定し、評価の基本的な考え方として『現状維持』を目指すものとする。

【ていーろど】

① 評価基準「利用状況」の設定

1) 利用実態の整理

これまでの実績において、ていーろどは、年間約 96 千人、健康福祉センター行きバスは 74 千人の利用がある。また、1 便当たりの過去平均利用者数は、ていーろど約 14.7 人/便、健康福祉センター行きバス約 8.1 人/便となっている。

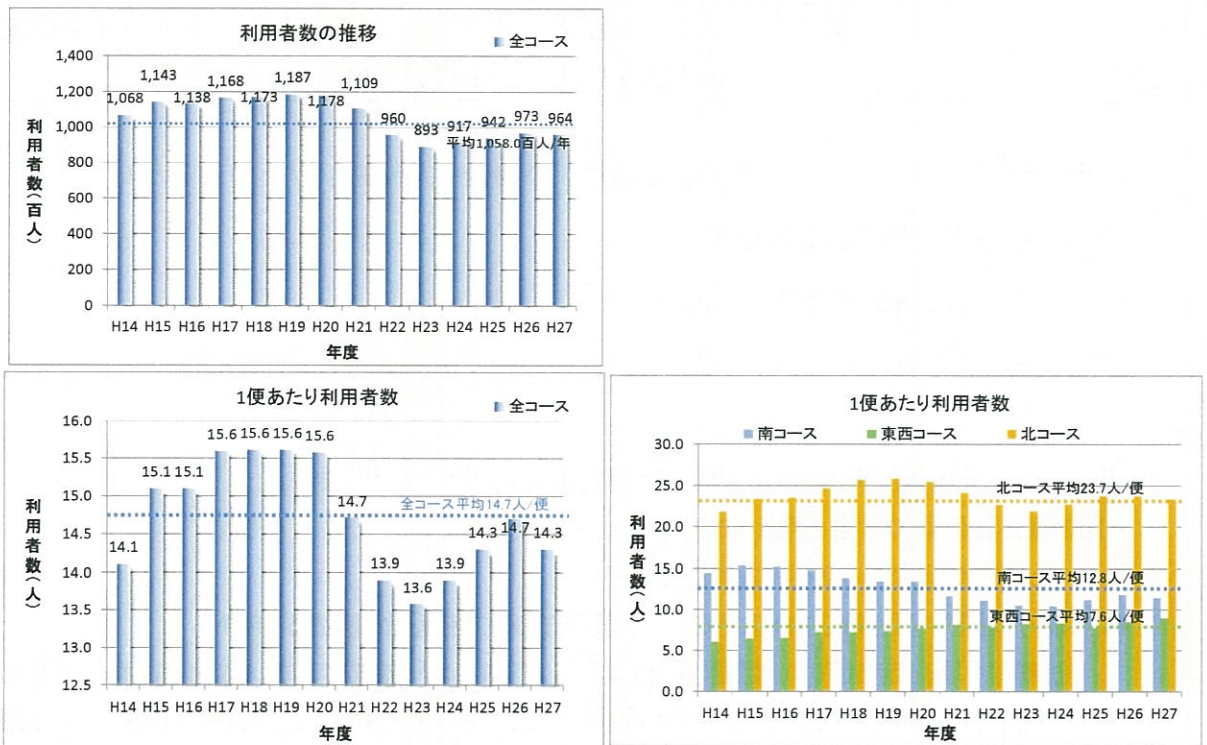


図 2-1 ていーろどの利用実績

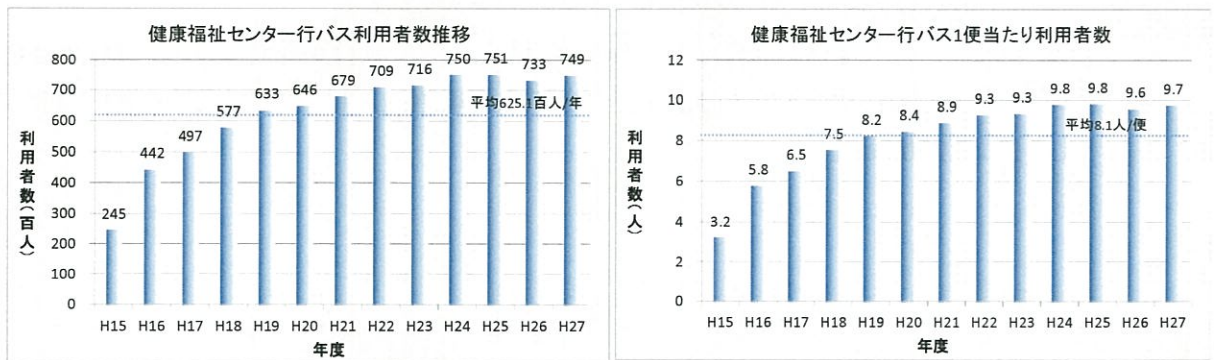


図 2-2 健康福祉センター行きバスの利用実績

## 2) 評価基準「利用状況」の設定

### ○「見直し検討」に関する基準

現状の利用状況については、年間利用者数 約 171,300 人/年（ていーろード全コース＋健康福祉センター行きバス利用者）であり、1 便当たりの利用者数は、表 2-2 に示す状況となっている。現行のバスの定員 24 人に対し、北コースは、ほぼ満員状況であるが、南コースや健康福祉センター行きバスについては、概ね 5 割の状況となっている。（健康福祉センター行きバスは、平成 15 年からの平均を取ると約 8 人/便であるが、平成 24 年以降近年は約 10 人/便で推移している。）

この状況を踏まえるとともに、短期的目標におけるバス等の再整理方針において、便数やルートを変更することから、「利用状況」に関する評価基準については、1 便当たりバス定員の 5 割を評価基準とする。

表 2-2 1 便当たりの平均乗車人数（現状）

北コース	23 人/便（H14～H27 平均）
南コース	12 人/便（H14～H27 平均）
健康福祉センター行	8 人/便（H15～H27 平均）

### 【利用状況における見直し評価基準】

1 便当たりの利用者数に対し、ていーろード及び健康福祉センター行きバスの乗車定員 24 名であることを踏まえ、1 便当たり乗車定員の 5 割を評価基準とする。

表 2-3 ていーろードの見直し検討に関する評価基準

各コース	12 人/便
------	--------

### ○「廃止検討」に関する基準

いずれかのコースが見直しの検討を行うことになった場合、ていーろード及び健康福祉センター行きバスの全体の運行状況を検証し、廃止も視野に入れた検討を行うものとする。

その際、別途作成予定の「入間市コミュニティバス 新規導入・運行改善ガイドライン」により、実証運行、改善運行等の実施の検討を地域公共交通協議会で精査・判断・助言を経て、廃止検討を行う。

## ②評価基準「運行経費」の設定

### 1) 現行の運行経費（市負担分）

平成 22～25 年度においては 500 円/人以上の経費がかかっていたが、平成 26 年度以降、車両の減価償却費がかからなくなったことにより、410 円/人程度となっている。

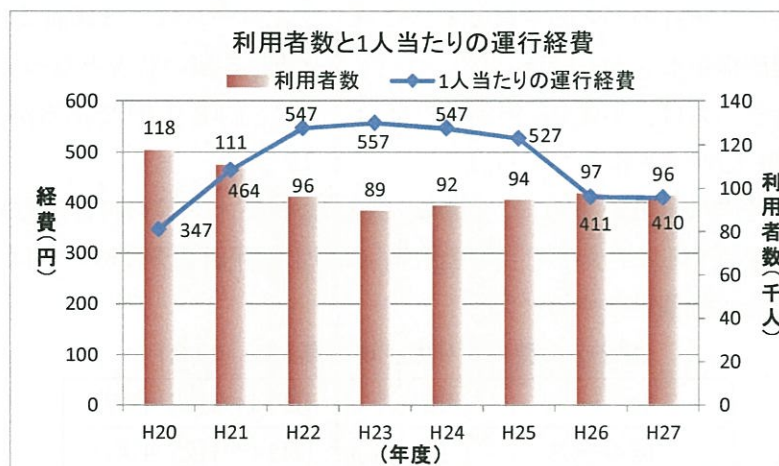


図 2-3 ていーろーど利用者数と 1 人当たり運行経費

### 2) 評価基準「運行経費」の設定

#### ○「見直し検討」に関する基準

平成 22 年度から平成 25 年度の実績をもとに、市が負担する 1 人当たり平均運行経費を上回らないことを評価基準とする。

表 2-4 見直しに関する評価基準

全体	500 円/人(市負担分)
----	---------------

## 【ワゴン化区間】

### ○「見直し検討」に関する基準

ワゴン化区間については、これまでの運行実績が無いため、過去の利用実績を評価基準とすることができない。

車両をワゴン化する予定の区間については、乗降状況調査結果から、1 便当たり平均利用者数は表 2-5 に示す状況である。よりきめ細やかなルートに見直しを行い利用者増を目指すものの、表 2-5 の結果からみても潜在的な需要は少ないと想定される。また、各コースで利用状況にばらつきもある。

従って、ワゴン化を予定する区間については、ワゴン車の定員 10 名に対し、1 便当たり乗車定員の 3 割を評価基準とし、これらの基準を下回った場合は、廃止も含めた見直しの検討を行うものとする。

表 2-5 ワゴン化予定区間における平均乗車人数（現状）

北ワゴンコース	4 人／便（入間台団地～入間博物館）
南ワゴンコース	3 人／便（東西コース全体）
東西ワゴンコース	2 人／便（健康福祉センター～入間博物館）

※コース名については仮称

## 【利用状況における見直し評価基準】

現在導入予定であるワゴン車は定員 10 名であることを踏まえ、1 便当たり乗車定員 3 割を評価基準とする。

表 2-6 ワゴン化区間の見直しに関する評価基準

各ワゴンコース	3 人／便
---------	-------

## （４）評価結果への対応

前項の評価基準「利用状況」・「運行経費」について、継続的・定期的に評価を実施するとともに、どちらか一方でも評価指標が下回った場合には、運行形態、運行手法等について、見直し検討を行う。

